

平成 1 9 年度

私立大学教員の授業改善白書

授業で直面している問題点

授業改善に向けた今後の努力・対策

授業での I T 活用状況

先進的な授業事例の紹介

情報技術の使用効果と問題点

効果を高めるための今後の改善策

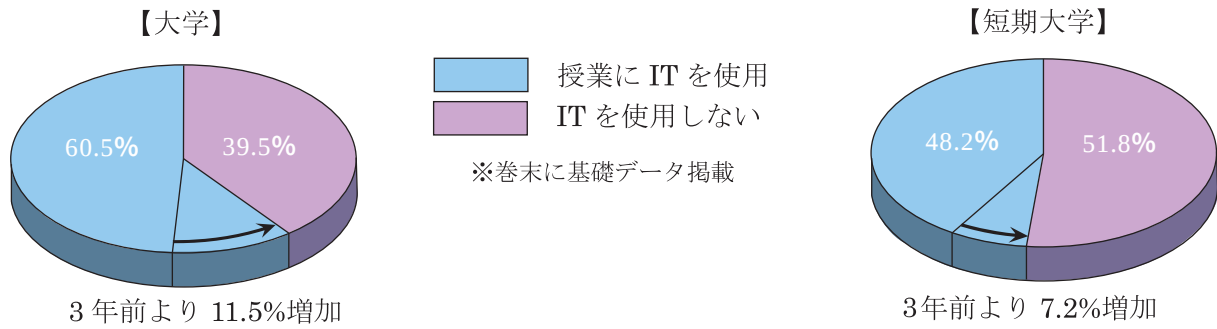
平成 2 0 年 5 月

社団法人私立大学情報教育協会

調査対象： 本協会加盟の大学・短期大学における全専任教員（助教以上）

	調査対象		回答状況		回収率
大 学	343 校	65,903 名	334 校	21,797 名	33.1%
短期大学	138 校	3,731 名	125 校	1,806 名	48.4%

《19 年度調査回答者の内訳》



授業で直面している問題点

学生に関する問題では、「基礎学力の不足」、「学習意欲の低下」

3 年前の調査と比べ、大学・短期大学とも依然として基礎学力、学習意欲が焦眉の課題となっている。特に大学の理学系・工学系では、7 割に近い教員が基礎学力の不足を問題視している。なお、短期大学では理学系 8 割、人文系 7 割と大学に比べ深刻な問題となっている。高校教科の未履修であれば、大学の補習授業で対応できるが、例えば初等の数学や読解力の不足は、補習授業以前の問題として授業を進める上で大きな障害となっており、初年次教育等による組織的な対応が急がれる。

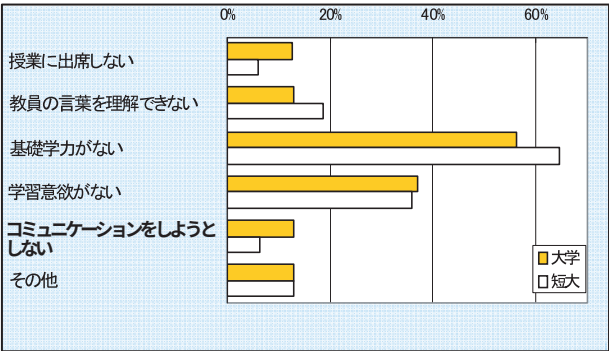


図 1. 授業で直面している問題点 【学生に関する問題】

〔表 1〕 授業で直面している問題点 【学生に関する問題】

	総計	人文科学系	社会科学系	理学系	工学系	情報科学系	農学系	保健系	生活・家政系	教育系	芸術系	その他
上段：大学回答者	19,605名	3,574名	3,948名	1,517名	2,313名	1,147名	475名	4,107名	563名	998名	493名	470名
下段：短期大学回答者	1,635名	308名	194名	28名	89名	103名	34名	126名	326名	201名	169名	57名
授業に出席しない	12.6% 6.1%	13.0% 8.1%	19.9% 4.1%	9.7% 3.6%	9.0% 4.5%	13.9% 6.8%	5.7% 2.9%	10.8% 6.3%	3.9% 4.6%	9.5% 4.0%	11.0% 10.7%	12.6% 7.0%
教員の言葉を理解できない	13.0% 18.7%	11.7% 16.9%	14.5% 20.1%	12.0% 17.9%	14.1% 15.7%	13.0% 24.3%	15.2% 17.6%	11.8% 25.4%	16.0% 17.2%	12.4% 17.9%	14.2% 16.0%	10.9% 24.6%
基礎学力がない	56.3% 64.7%	60.2% 70.8%	53.4% 64.9%	70.4% 82.1%	66.1% 60.7%	52.4% 66.0%	53.1% 70.6%	48.5% 64.3%	59.0% 69.6%	42.9% 56.2%	54.4% 50.9%	63.0% 66.7%
学習意欲がない	37.2% 36.0%	32.6% 30.2%	36.2% 38.7%	38.0% 46.4%	43.8% 67.4%	42.5% 37.9%	32.8% 14.7%	42.8% 34.1%	26.1% 38.0%	29.4% 31.8%	20.1% 31.4%	33.4% 35.1%
コミュニケーションをしようとしない	13.0% 6.4%	12.1% 5.8%	12.2% 6.7%	9.7% 7.1%	9.9% 4.5%	12.2% 5.8%	22.1% 2.9%	16.1% 7.1%	10.5% 6.1%	16.4% 7.5%	13.0% 8.3%	11.9% 3.5%
その他	13.0% 13.0%	13.3% 12.7%	13.3% 13.4%	9.8% 0.0%	8.9% 5.6%	14.6% 9.7%	12.6% 23.5%	10.6% 12.7%	19.9% 11.0%	23.7% 18.9%	20.5% 17.2%	16.2% 10.5%

教員に関する問題では、「学習意欲を高める工夫が難しい」

全入時代を目前にしたユニバーサル段階では、目的意識が希薄な学生に「学び」の重要性について、授業を受けることでどのような能力が身に付くのか、社会に出てどのような場面で役に立つのか、「学習意欲を喚起する動機付けの工夫」とそれを効果的に実現するための「授業デザイン」、授業技術の工夫が指摘されている。FDの義務化が始まる20年度以降優先的に取り組まなければならないテーマである。また、一教員では解決が難しい問題として、関連教科との密接な連携を希望しているが、その実現は3年前の調査でも指摘されており、教員がチームを組んで実現できるよう授業の役割分担を明確にするなどの取り組みが望まれる。

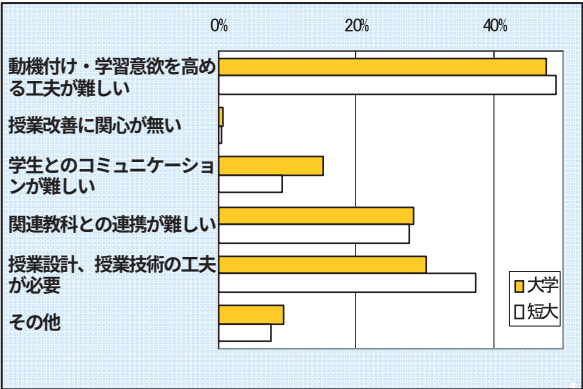


図2. 授業で直面している問題点【教員に関する問題】

【表2】授業で直面している問題点 【教員自身に関する問題】

	総計	人文科学系	社会科学系	理学系	工学系	情報科学系	農学系	保健系	生活・家政系	教育系	芸術系	その他
上段: 大学回答者	19,898名	3,635名	3,998名	1,505名	2,293名	1,131名	497名	4,208名	584名	1,059名	510名	478名
下段: 短期大学回答者	1,674名	302名	200名	30名	92名	102名	34名	130名	341名	206名	182名	55名
動機付け・学習意欲を高める工夫が難しい	47.6% 49.0%	45.9% 49.7%	49.1% 54.5%	54.6% 76.7%	54.0% 63.0%	50.2% 53.9%	40.4% 47.1%	46.6% 46.2%	38.9% 47.5%	38.9% 40.8%	32.5% 39.6%	50.2% 56.4%
授業改善に関心が無い	0.6% 0.4%	0.5% 0.3%	0.3% 0.0%	0.1% 0.0%	0.2% 0.0%	0.6% 1.0%	0.0% 0.0%	1.4% 2.3%	0.3% 0.3%	0.5% 0.0%	1.2% 0.5%	0.4% 0.0%
学生とのコミュニケーションが難しい	15.2% 9.3%	15.8% 10.9%	16.4% 10.0%	15.9% 10.0%	15.8% 13.0%	15.1% 7.8%	19.5% 5.9%	14.2% 8.5%	10.3% 5.3%	12.2% 6.8%	10.4% 14.3%	15.9% 16.4%
関連教科との連携が難しい	28.4% 27.8%	25.7% 19.9%	28.7% 25.0%	29.4% 16.7%	26.7% 32.6%	27.4% 17.6%	31.0% 26.5%	31.2% 38.5%	33.7% 31.7%	24.8% 36.9%	29.6% 28.6%	25.9% 12.7%
授業設計、授業技術の工夫が必要	30.2% 37.3%	31.1% 34.8%	30.6% 40.5%	24.4% 23.3%	27.8% 21.7%	29.6% 39.2%	30.2% 29.4%	30.1% 39.2%	37.2% 38.1%	35.4% 40.8%	33.3% 42.9%	29.7% 34.5%
その他	9.6% 7.6%	10.0% 10.3%	9.0% 4.5%	8.0% 6.7%	8.8% 5.4%	11.3% 11.8%	9.5% 14.7%	8.2% 5.4%	11.6% 5.9%	14.4% 9.7%	12.9% 5.5%	10.7% 10.9%

大学に関する問題では、「教育に対する危機意識が低い」「組織的な支援がない」

教育の質保証に対する危機意識の低さが3割、組織的な教育支援・学習支援の不備が4割と指摘しているように、人材育成を大学の使命として位置付け、教育活動の積極的な展開を目指している大学・短期大学が多くないことがうかがえる。

社会が期待する有意な人材を育成するには、学習成果としての質保証を大学自身の工夫で明確化し、それを実現するための仕組みを教職員が一体となり、組織的に創り上げていくことが望まれる。これらの問題はFD以前の問題であり、大学が持つべき基本的な教育目標の共有化、意識合わせを大学の責任の下で進めることが望まれる。

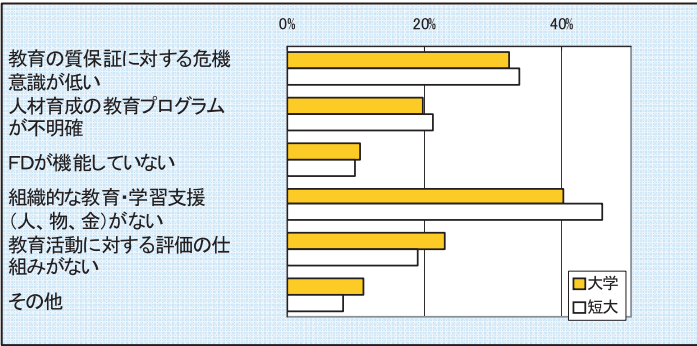


図3. 授業で直面している問題点 【大学に関する問題】

〔表3〕授業で直面している問題点【大学に関する問題】

上段：大学回答者 下段：短期大学回答者	総計	人文科学系	社会科学系	理学系	工学系	情報科学系	農学系	保健系	生活・家政系	教育系	芸術系	その他
	18,689名 1,539名	3,423名 283名	3,758名 180名	1,389名 25名	2,136名 84名	1,048名 99名	471名 36名	3,976名 121名	554名 311名	996名 194名	490名 157名	448名 49名
教育の質保証に対する危機意識が低い	32.3% 33.7%	35.6% 37.8%	33.1% 30.6%	36.6% 52.0%	33.1% 40.5%	30.3% 29.3%	29.7% 19.4%	27.8% 33.1%	31.0% 31.5%	30.9% 34.0%	35.5% 32.5%	31.5% 38.8%
人材育成の教育プログラムが不明確	19.8% 21.2%	19.4% 19.4%	18.7% 24.4%	16.7% 8.0%	17.8% 26.2%	15.8% 19.2%	20.4% 11.1%	25.1% 31.4%	19.7% 23.8%	19.0% 13.9%	13.9% 21.0%	20.1% 18.4%
ファカルティ・ディベロップメント(FD)が機能していない	10.7% 9.9%	11.5% 11.3%	12.7% 11.7%	10.5% 12.0%	10.9% 10.7%	11.3% 11.1%	13.6% 2.8%	8.4% 10.7%	9.6% 9.0%	10.2% 12.9%	6.9% 5.1%	11.8% 4.1%
組織的な教育・学習支援(人、物、金)がない	40.3% 45.8%	40.1% 42.0%	40.1% 40.6%	36.5% 44.0%	36.9% 45.2%	41.1% 48.5%	37.2% 41.7%	42.8% 48.8%	45.1% 42.1%	41.3% 54.6%	40.2% 52.2%	40.8% 46.9%
教育活動に対する評価の仕組みがない	23.0% 19.0%	18.4% 18.0%	21.3% 16.7%	24.5% 16.0%	26.8% 20.2%	26.3% 25.3%	28.0% 47.2%	27.2% 11.6%	18.1% 20.9%	17.1% 16.0%	18.0% 18.5%	23.0% 18.4%
その他	11.0% 8.1%	11.0% 9.9%	11.7% 11.1%	11.9% 0.0%	10.5% 3.6%	13.0% 6.1%	9.6% 5.6%	8.2% 6.6%	12.5% 9.0%	15.0% 9.3%	13.1% 6.4%	12.9% 2.0%

授業改善に向けた今後の課題

教員自身による努力では、第一に「学習意欲を高める授業の設計」 第二に「理解度に応じた授業」が課題

授業にITを使用する教員、使用しない教員ともども、3年前の調査結果同様、8割近くが学びの意欲を喚起する学生主体の授業作りを指摘しており、喫緊の問題であることを物語っている。また、6割が授業運営の問題として、小テスト（アンケート）等の方法で学生の理解度をキャッチアップした授業の運営を目指し、3割は教員と学生の対話・学生同士の対話を重視した双方向授業を課題としている。3年前の傾向と異なる点は、ITの活用により事前・事後学習指導の理解がすすんだこともあり1割程度減少した反面、現場感覚を導入した社会との連携授業が1割増え3割近くとなっている。なお、学びの動機付けを高める手法として、2割強が授業で獲得できる能力、授業価値の明確化を徹底したいとしている。

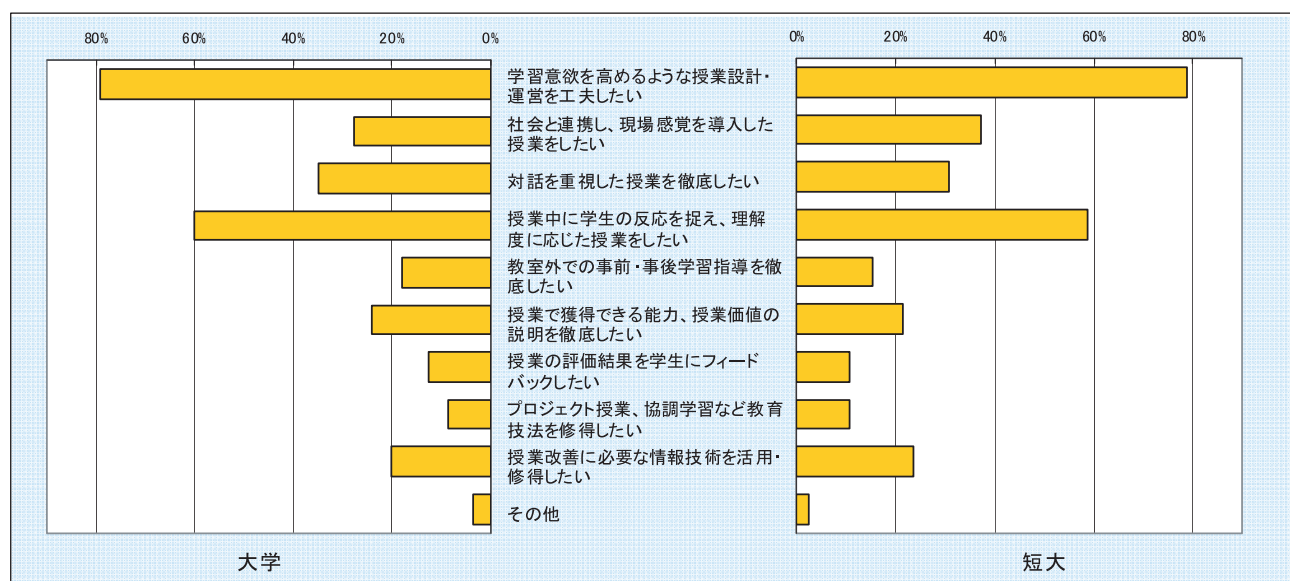


図4. 授業改善に向けた課題【教員自身による努力】

〔表4〕授業改善に向けた課題 【教員自身による努力】

上段:大学回答者 下段:短期大学回答者	総計	人文科学系	社会科学系	理学系	工学系	情報科学系	農学系	保健系	生活・家政系	教育系	芸術系	その他
	21,797名 1,806名	4,065名 336名	4,372名 210名	1,632名 31名	2,458名 96名	1,217名 107名	543名 40名	4,527名 135名	632名 355名	1,205名 229名	613名 207名	533名 60名
学習意欲を高めるような授業設計・運営を工夫したい	79.1% 78.7%	79.1% 80.7%	76.6% 80.0%	84.1% 93.5%	80.5% 80.2%	82.5% 85.0%	80.8% 65.0%	80.6% 79.3%	75.8% 80.8%	74.6% 70.7%	72.1% 76.8%	76.5% 73.3%
社会と連携し、現場感覚を導入した授業をしたい	27.6% 37.4%	17.7% 21.4%	34.8% 50.0%	10.8% 9.7%	33.2% 32.3%	26.5% 27.1%	36.1% 47.5%	26.9% 35.6%	41.5% 43.9%	33.7% 45.0%	39.0% 44.4%	27.8% 28.3%
対話を重視した授業を徹底したい	34.7% 30.7%	39.2% 38.7%	36.9% 35.2%	34.4% 32.3%	30.7% 36.5%	27.0% 27.1%	32.6% 32.5%	32.8% 25.9%	22.9% 23.4%	41.2% 31.4%	37.7% 25.6%	33.8% 35.0%
授業中に学生の反応を捉え、理解度に応じた授業をしたい	60.0% 58.9%	62.4% 60.1%	58.4% 55.2%	70.5% 64.5%	60.1% 65.6%	61.5% 62.6%	58.4% 60.0%	59.0% 67.4%	59.3% 55.5%	52.5% 51.1%	52.5% 67.1%	56.1% 45.0%
教室外での事前・事後学習指導を徹底したい	18.0% 15.4%	21.7% 19.3%	17.1% 15.2%	24.6% 19.4%	20.0% 18.8%	20.0% 15.0%	15.3% 30.0%	13.6% 11.9%	12.8% 12.7%	13.6% 11.8%	18.6% 14.0%	18.6% 20.0%
授業で獲得できる能力、授業価値の説明を徹底したい	24.1% 21.3%	22.3% 18.2%	22.8% 21.9%	23.3% 25.8%	28.4% 20.8%	26.4% 21.5%	21.0% 5.0%	24.0% 15.6%	26.4% 22.5%	24.4% 26.6%	25.6% 22.7%	23.8% 26.7%
授業の評価結果を学生にフィードバックしたい	12.4% 10.7%	10.3% 9.2%	9.9% 5.7%	13.4% 12.9%	11.5% 10.4%	11.7% 13.1%	14.9% 12.5%	17.3% 14.1%	12.2% 11.0%	12.0% 15.7%	11.4% 7.7%	11.3% 11.7%
プロジェクト授業、協調学習など教育技法を修得したい	8.5% 10.9%	8.2% 10.7%	8.8% 8.6%	3.3% 3.2%	6.9% 5.2%	11.4% 15.0%	6.8% 12.5%	10.1% 13.3%	11.9% 12.1%	10.2% 11.8%	8.0% 10.1%	7.7% 10.0%
授業改善に必要な情報技術を活用・修得したい	20.1% 23.6%	22.6% 26.2%	19.0% 19.0%	16.5% 12.9%	14.5% 19.8%	14.7% 19.6%	19.7% 15.0%	24.1% 27.4%	26.4% 27.6%	22.2% 26.2%	17.3% 19.8%	17.8% 20.0%
その他	3.5% 2.3%	3.7% 3.9%	3.4% 1.4%	4.2% 6.5%	3.7% 0.0%	4.9% 4.7%	2.6% 2.5%	2.7% 0.0%	2.4% 1.7%	4.1% 3.5%	3.4% 1.4%	4.3% 1.7%

大学で取り組むべき課題は、「教員の意識改革」「出口管理」 短期大学での課題は、「教員の意識改革」「教育・学習支援体制」

組織をあげて対応すべき課題は、大学では4割が人材育成を職務とする「教員の意識変革・教育目標の共有化」、「学習到達度の点検による出口管理の徹底」としている。短期大学では教員の5割近くが意識改革と教育学習支援体制の整備としている。特に短期大学では2年間で能力を身に付けるため、教育・学習支援体制の整備を重要視している。他方、講義と体験を組み合わせたカリキュラムの導入が大学・短期大学とも4割近くとなっている。知識偏重型の教育から達成感や自己実現力などの人間基礎力の向上を目指した教育を求めており、3割の教員が教育力の再開発を課題として意識している。

なお、筆記試験に偏向しない多面的な成績評価の厳格化は、大学・短期大学とも2割未満にとどまっている。さらに教育の質を保証する学内統一試験の実施は、学士力が明確化されていない現段階では理解が得られていないこともあり関心が低い。

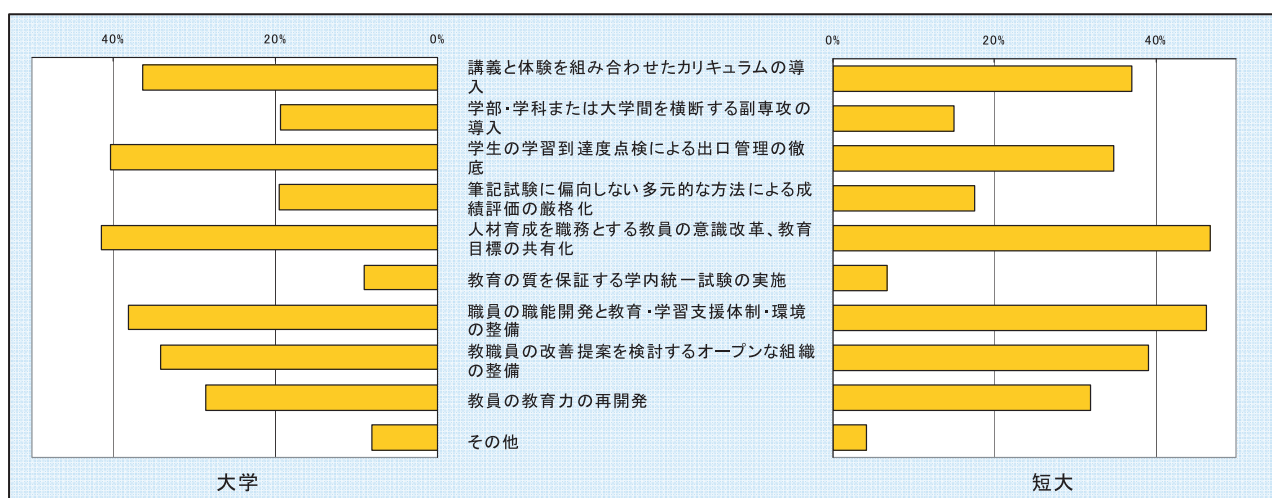


図5. 教育改善に向けた課題【大学として取り組むべき課題】

FDの実質化

「教育力の自己点検」「FD支援体制」「授業公開」「評価・顕彰」

FDの普及は8割以上の大学で実施され一般的になっているが、その参加は問題意識を持つ教員に留まり、教育改善に関心が薄い教員の参加となっていない。FDの内容・方法を見ても一方通行的な講演型のスタイルが多く、問題点を議論するような討議形式、教育技法や情報技術などを体験する実質的なFDが極めて少ない。このような現状を打開する対策としては、4割近くがFDを支援する組織・体制の整備充実、教員相互による授業研究、学生、職員、社会人などを含めたオープンな授業研究の実施が指摘されている。

FDの成否は、教員の自主的な参加によることを基本とすることから、4割近くが教員自身による「教育力の自己点検」、「優れた授業を評価・顕彰する制度の導入」が重要としている。大学のリーダーシップでFDの参加を義務付ける方法は1割程度にとどまっており、限界があることが伺える。

今後の課題としては、専門分野ごとに教育力の点検項目を整理し、Webサイトの上でポートフォリオの形で教員が自主的に自己点検・評価ができるような仕組みが望まれる。不足している能力の対応は、大学として問題をキャッチアップし、個々の教員の対応能力に応じたきめの細かい支援と展開に取り組んでいくことが肝要と思われる。

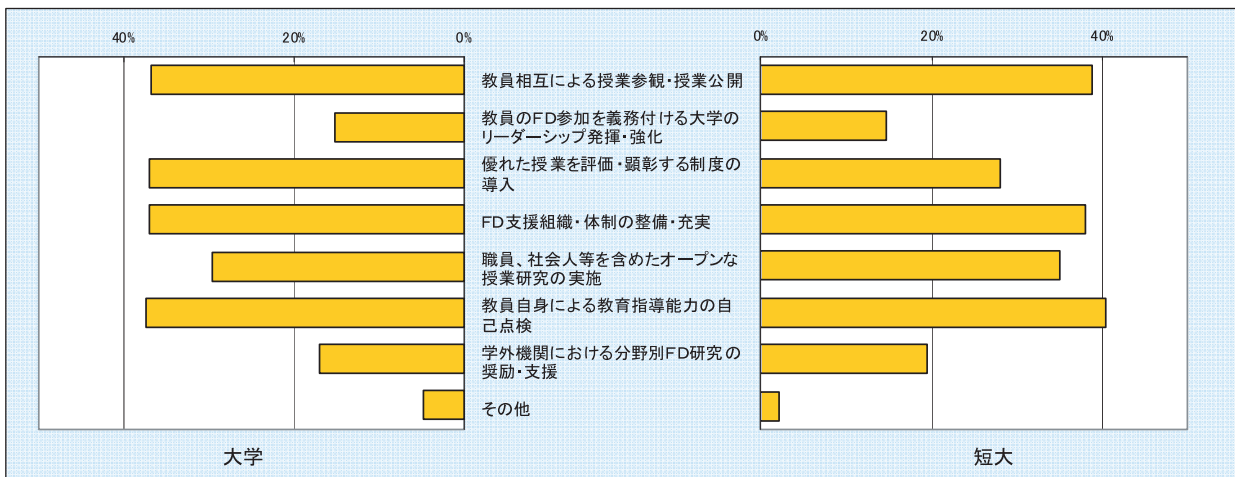


図6. 授業改善に向けた課題【FDの実効を高める対策】

一大学で解決できない課題

「FD事例のアーカイブ化」「分野別FD研究」「産学連携の教育支援」

FD成功事例のアーカイブ化を図るには、文部科学省との連携の中で成功事例等について情報を収集し、FDに関する国内外の情報を共有できるようなナショナルセンターを早急に設立することが望まれる。

分野別FDの研究を振興・普及するには、大学団体もしくは学協会における活動に対して、文部科学省による支援の積極化が望まれる。その中で、分野別学士力の参考指針のモデル化、教員の専門性と教育力についてオープンに情報交換する場としてナショナルセンターの役割が期待される。

産学連携による教育サポート制度を実現するには、人材ニーズのミスマッチの解消、動機付けを高めるための現場情報の提供、キャリア教育プログラムに対する助言、学習成果に対する評価など、教育現場に必要な支援・協力について産業界とのパートナーシップの促進を図ることが必要である。

財政支援については、FDの支援活動に必要不可欠な経費、例えばFD支援に携わる教職員の人件費、

FD 活動のオープン化に向けた情報環境の整備、ピア・レビューに伴う運営費、ワークショップに伴う教材費・会議費・報酬委託費などについて補助の道を設けることが望まれる。

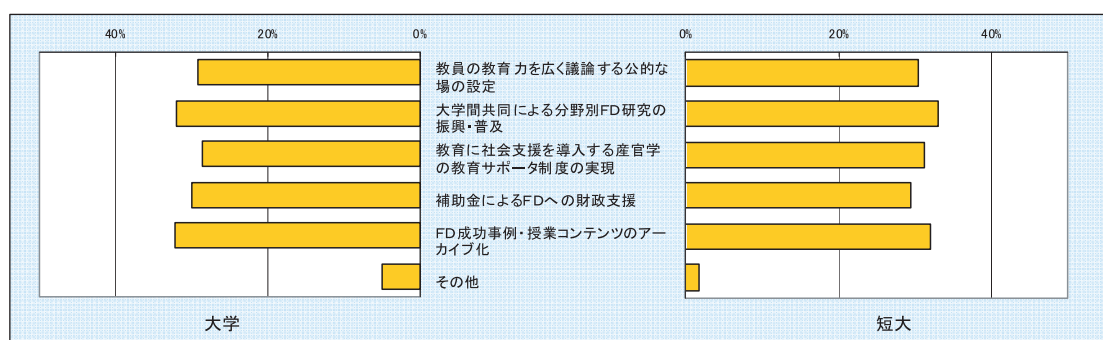


図7. 授業改善に向けた課題【一大学では解決できない課題】

授業に IT を活用する教員数

授業に IT を活用している教員数は、19 年度調査では大学 12,566 名、短期大学では 815 名となっている。ただし、3 年前の調査で活用と回答した教員が一部今回の調査に未回答のため、大学 5,852 名、短期大学 706 名を加え IT 活用教員（大学 18,418 名、短期大学 1,521 名）を算出した。その結果、IT 活用教員の割合は、少なくとも大学教員 65,903 名の 3 割、短期大学では 3,731 名の 4 割となっている。

授業での IT 活用状況

**現状では、情報検索、教材作成、教育情報の掲載が主
2 年先は、自学自習、現実感覚の創出、授業評価の収集**

3 年前の回答結果と比べ、19 年度の情報技術の使用状況に大きな変化は見られない。選択肢が必ずしも同一でないことから正確な比較はできないが、2 倍以上に使用状況が増えたものとしては、「理解困難な理論のアニメーション化・映像化」、「理論と実際の映像によるマッチング」が 35% 前後となっており、映像を駆使した IT の活用が普及してきていることがうかがえる。

新しい IT の活用法として、授業中の理解度把握に携帯電話を活用する割合が 1 割程度となっており、2 年後には 4 倍程度の計画が見込まれ、今後の授業環境に欠かせないツールとなりつつある。またネットを活用した授業アンケートの収集は 15% 程度となっているが、2 年先には 5 割の教員が計画している。

「学習履歴をとり、ネット上で個人指導を行う」e ラーニングの使用については、5% に留まっている。3 年前は、e ラーニングの定義を「教材・資料、小テスト・練習問題などを Web ページに掲載し、自学自習」としたため、25% 程度の回答となっていた。今回は、e ラーニングの定義を厳格化したため、より現実に即した使用状況が明らかとなった。2 年先には授業録画を含めた自学自習の計画が 4 割程度見込まれるが、e ラーニングを支援する大学の体制・環境が連携して整備されなければ、教員が希望するような計画の実現は困難と思われる。

3 年前の計画を 19 年度に照らしてみると、殆どが計画通りに実現していないことが判明した。このことは、教員側の希望と大学側の対応とに大きなズレが生じていることを意味しており、今後は教員の希望に即して、大学側がどこまで教育改善に力を注ぐことができるか、大学の姿勢にかかっている。

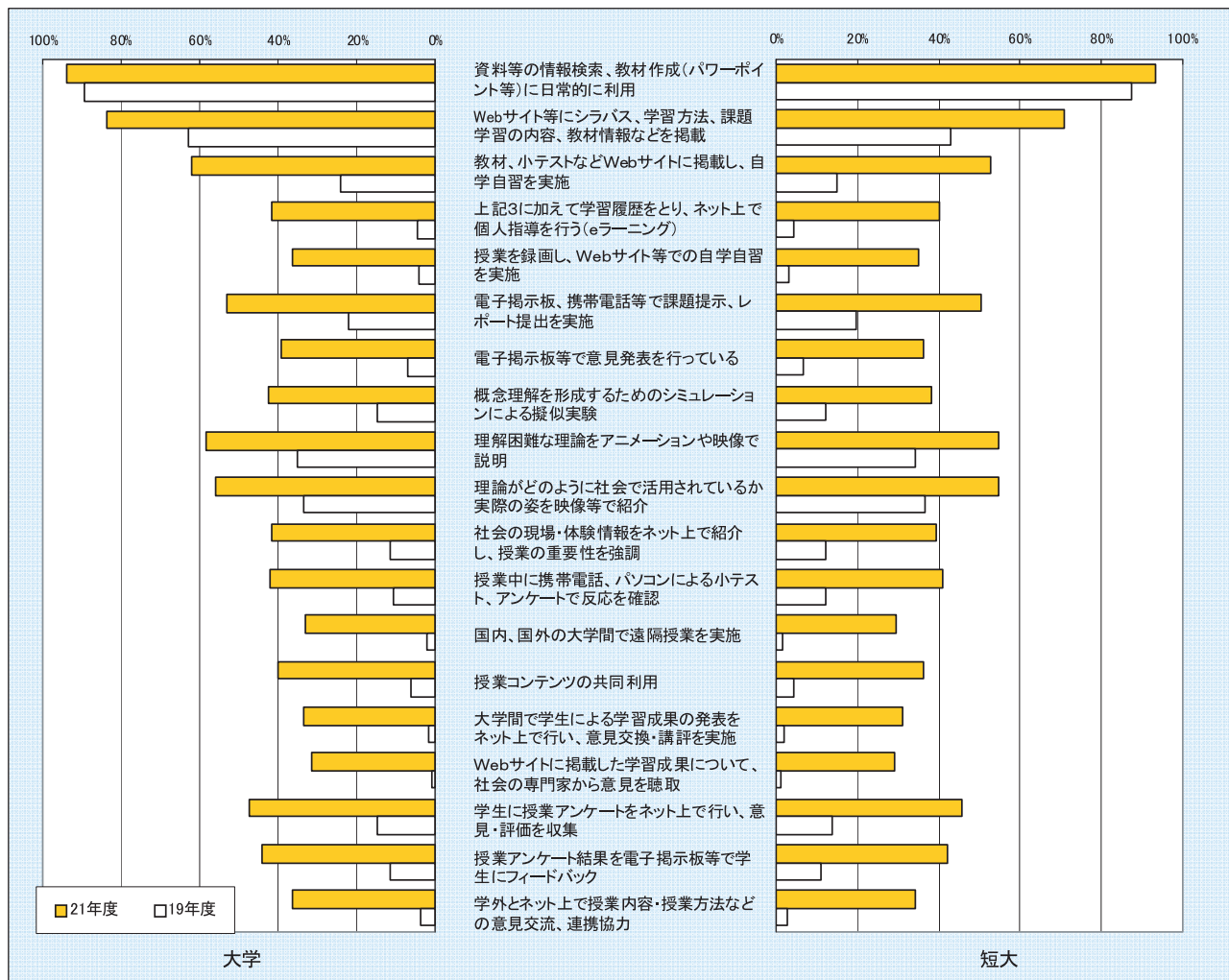


図 8. 授業での IT 活用状況

情報技術の使用効果

効果：授業に刺激を与えることができた

情報技術の効果としては、3年前の調査と比べ、「授業に刺激を与えることができた」が13%増加し、6割に近い教員が効果を認めている。また、「学習の動機付けの向上」「プレゼンテーション力の向上」「学習意欲の向上」については、2割から3割に近い教員が効果を認めている。特にプレゼンテーション力については3年前に比べ10%増加した。しかし、「成績の向上」については、前回とほぼ同様3%に留まっており、情報技術の使用が成績の向上に直接寄与していないことが改めて確認された。授業の目標達成に効果的な授業設計がない中ではITによる効果が発揮しにくい。

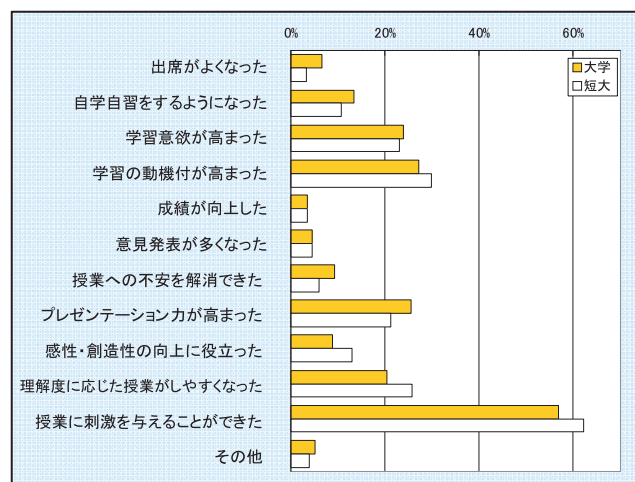


図 9. 情報技術の使用効果【効果】

問題点：ノートやメモを取らない、理解しているようで理解していない

情報技術の問題点としては、3年前と比べ「ノートやメモを取らなくなる」傾向が顕著になってきている。反面、「計算結果を鵜呑みにする」は、3年前と比べ大学10%、短期大学で12%減少し、5%から6%に改善されている。「理解しているようで理解していない」は、3年前と同じ5割程度となっており、依然として

解決策は見出されていないことがうかがえる。なお、「能力が身につかない、成績向上に連動しない」が10%と低くなっているのは、情報技術の活用による因果関係が明確でないことから積極的に問題点として掲げることができなかったものと思われる。

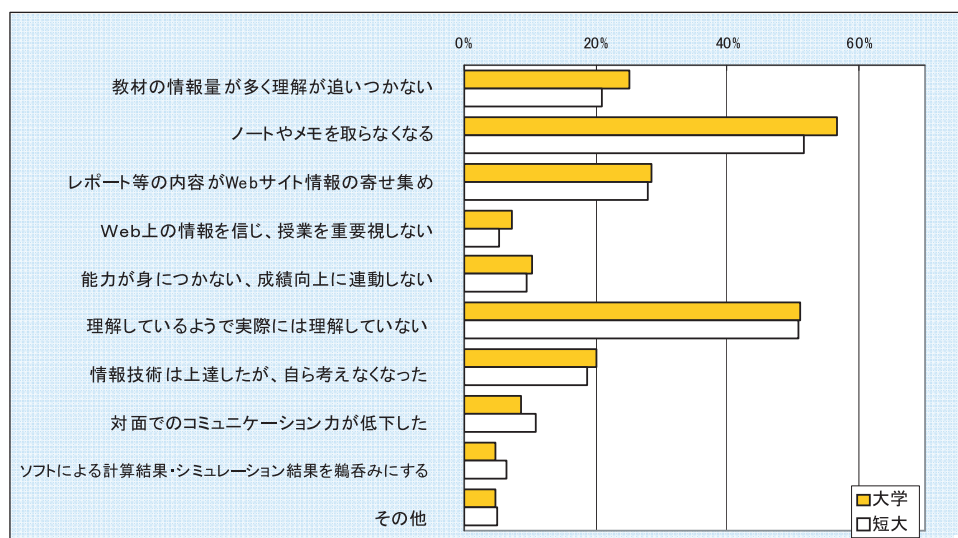


図10. 情報技術の使用効果【問題点】

効果を高めるための今後の改善策

授業シナリオの工夫、教材の簡素化とメモの義務付け

授業のどのような場面で情報技術を使用することが効果的なのか、6割が授業シナリオを作る中で学生の理解度を最大に高めるよう工夫するとしている。例えば、学びの重要性をわかりやすく説明する場面では、教員だけではインパクトが少ないので、卒業生等の協力を得て授業で学んだことを社会でどのように役立てているかをインターネットで紹介することで、現実的な理解が可能となる。また、パワーポイントを使用する際もメモを取らせる工夫や一歩通行的な説明を中断して質問を投げかけるなど、情報技術とアナログを織り交ぜた授業設計の工夫が要請される。なお、計算結果の鵜呑み問題については、3割に近い教員が原理原則の基礎知識の修得が必要であるとしている。

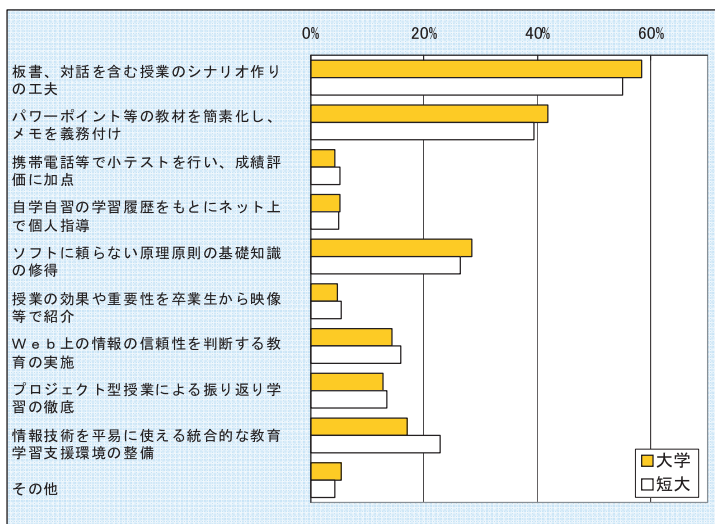


図11. 授業を高めるために今後の改善策

人文科学系

外国語学	『インテンシブ中国語』	中国語発表技法の授業でTV会議方式を採用、海外含め5地点を結んで討論会を実施。
	『英語購読』	実用英語で速読、聴解の反復練習に適したソフトを利用し、自習させた成果を授業中に小テストとして実施。
心理学	『臨床心理学』	心理療法の実際場面を録画した教材を利用して、提示する前後に受講生各人の応答を記載し、専門家の応答と比較させる。
文化関係学	『アジアの歴史と文化』	ブログを利用して授業について毎回コメントを書かせることにより、理解度を知らるとともに、学習意欲を高めている。

社会科学系

経済学	『マクロ経済学』	携帯電話で授業の要旨を送らせ、理解度を確認し、次回授業に反映。授業内容は事前にWebにアップしておきその要点を授業で行うようにしている。
	『都市政策論』	地価や利子率の変動で不動産開発の最適なタイミングがどのように変化するか、エクセルを用いて簡易な最適化のシミュレーションを実施。微積分を用いて理論的に解くことは難しいが、結果がどのように変わるかを体験させることで興味を持ち、課題をさらに発展させることができる。
	『比較経済論』	自学自習とeラーニングを学部的主要科目全てに実施、基本問題1000題を作成して自学自習に供している。
経営学・経営情報学	『人的資源管理論』	演習で授業準備のためにeラーニングプラットフォームを活用。グループ課題ごとの進行状況が学生グループ間相互でオープンになるため、競争意識が生まれ、モチベーションがあがっている。
コミュニケーション関係学	『プレゼンテーション概論』	Web上にスケジュールや課題を提示、レポートを24時間以内にチェックし、平常評価としてリアルタイムに閲覧できるようにしている。授業態度や出席へ積極性が増し、次週の授業までに予習や復習をする習慣を身につけさせることができる。

理 学 系

化学	『量子力学』	機能を限定したBBSで授業に関する課題提出、回答、意見交換を行っている。受講生を授業に引きつける役割は果たしている。また、文章の添削も指導できるので、日本語による表現力も鍛えられている。
生物学	『生命科学概論』	CTまたはMRIなど医用イメージングデータや手術ロボットのマニピュレーション画像のデモンストレーションを動画データで提示。実際の臓器の動きや医用機器の動きを現実感覚で理解させている。

工 学 系

機械工学	『機械CAD』	CAD/CAMシステムの動画マニュアルや教材支援システム(CAI)等を独自に開発。理解度が従来より格段に高まった。
	『3次元CAD設計演習』	3次元CADを設計コミュニケーションのためのツールと捉え、チーム設計演習を行っている。各自が問題設定を行った上でそれを解決させることで、学習内容の一層の深化が実現されている。
電気通信工学	『デジタル電子回路』	電気工学実験で各テーマ毎に実験操作手順を録画収録し、学内VOD配信している。
	『パワーエレクトロニクス』	毎回の講義のポイントを解説の後、各自のPCで回路シミュレーションを行わせて動作を確認させ、更にやや発展的な内容の課題レポートを課し、翌週に提出させることで成果を上げている。

建築工学	『建築構法』	建築構法、建築のしくみのCGIによるシミュレーションを通じて教室内で建物を組立ったり、分解することで理解が向上している。
応用化学	『錯体化学』	学習意欲を高めるため、錯体の反応による溶液の色変化をビデオカメラを用いてプロジェクターに拡大投影する。このことで学習内容の定着と学習意欲が向上した。
その他	『無機合成化学』	教科書上での理論が製造現場において如何に活用されているか、具体的な事例をIT情報を駆使して説明している。学生には具体的な事例を示すことで、より理解を深めるとともに、実社会での製造現場に興味を抱かせることができる。

情報科学系

情報工学	『ソフトウェア開発工学』	講義内容を他の2大学へ同時に配信するとともに、それらの大学での受講生の様子もチェックできるようにしている。1週間以内にオンデマンド化し、講義の内容をオープンコースウェアとして利用できるようにしている。なお、2大学の授業の様子も確認できるようにしている。
その他	『マルチメディアコミュニケーション』	教室での受身姿勢による受講をなくすため、30回の授業のうち、10回程度をeラーニングによる自学自習として、確認テスト、掲示板等でのディスカッション、課題提出を組み合わせる授業をすすめている。

保健系

歯学	『病理学・口腔病理』	病理学Web教材として、画像検索・閲覧システム、解説教材、Q&A教材を配信し、学生の自学自習を促している。
薬学	『物質の構造』	物質の構造ではシミュレーション・アニメ等を利用して概念の理解を高めている。
	『衛生化学』	衛生化学実習で、実験の原理、実際などのコンテンツと映像を学生に配信し、Web上で研究結果の発表会を実施し、理解を高めている。

生活・家政系

被服学	『生活情報論』	アパレルデザインにおいて、デザイン展開例や現場の様子などを画像や映像で見せる授業を実施することで実際の衣生活を見る視点が養われている。
-----	---------	---

教育系

教育学	『環境（指導法）』	Web経由で環境カレンダーを学生が登録し、オンラインデータベースを構築、情報を相互利用する。画像は携帯電話で送り、Webでは本文を登録。保育に必要な情報や学生が興味ある事柄が年間数千件ずつ蓄えられ、オンラインデータベースを構築している。
-----	-----------	--

芸術系

美術	『絵画実習』	古典的な絵画技法の情報の真偽をネット上で議論し、確認、発表する授業を実施している。
----	--------	---

（将来）

授業でのIT活用計画

人文科学系

心理学	『社会心理学』	学生からの反応をリアルタイムで集計し、その結果に応じて授業内容を変更するなどの、インタラクティブな授業を計画している。
-----	---------	---

社会科学系

法学	『中小企業予防法務』	eラーニングシステムをパソコンだけでなく、携帯電話に対応するように改善し、予習・復習システムを確立し、授業の理解度を高める。
会計学	『簿記原理』	携帯電話により学生の反応に即したその場で理解度を確認できるような仕組みを導入することにより、効率的な授業運営が可能になる。
社会学	『社会調査法』	ブログで調査プロジェクトの活動報告、成果報告を行い、社会調査の意義を学外に向けて発信することで学生のモチベーションを高める。
経営学・経営情報学	『マネジメント』	Web上でマネジメント・シミュレーションのコンペティションを実施。
	『経営戦略論』	出席管理と携帯電話による意見交換・コメントのリアルタイムでのコミュニケーション、さらに大型ディスプレイによる共通理解の促進。

理学系

数学	『数学』	SNS的電子掲示板システムを構築して、教師対学生(個人指導)、学生対学生(協同学習)をとりいれた仮想的空間による学習の充実をはかりたい。
物理学	『物理学』	基礎科目の学習履歴と関連科目間の学習履歴、および指導実績・経過等を全てカルテで鳥瞰、個別指導に生かすことで基礎学力の構築に役立てたい。

農学系

獣医畜産学	『獣医畜産学』	教育を実践する現場との連携教育。(ネット上での連携)
-------	---------	----------------------------

保健系

医学	『形成外科学』	手術シミュレーションをネットで行い、手術後の結果を予測させる。
	『整形外科科学』	ライブサージェリー(手術室と講義室の双方向)による遠隔講義。
歯学	『口腔衛生学・口腔保健学』	支援サイトを利用した学外臨床実習におけるポートフォリオ作成。
	『口腔外科診断学』	入学から卒業まで6年間の学生のポートフォリオをWeb上で管理し、教員側の指導に役立てるプロジェクトを開始。
薬学	『臨床薬学系実習』	シミュレータを使用した薬物投与後のバイタルサインのチェックと変化を理解するための実習。
	『臨床コミュニケーション論』	コミュニケーション実習を録画し、実習結果についての点検フィードバックの実施とWeb会議システムを使った他の医療関連学生との医療カンファレンスによる共同実習。
	『臨床統計解析法』	薬学共用試験の実技試験(OSCE)に関して、課題項目の提示(PC・携帯)やデモ映像の動画配信(Flash, Podcast)で事前学習を反復・徹底させる。

教育学系

	『教師教育論』	教育学演習でSNSを利用したボランティアフォーラムを構築。教え合い、情報交換、ふり返り効果を期待している。
--	---------	---

芸術系

美術	『絵画実習』	海外の大学等とネット上での作品発表と交流を行う。
その他	『舞踊学』	3DCG教材を応用することで舞踊への関心アップに繋がる。

1. Web 制作会社と連携した双方向授業

名古屋学芸大学短期大学部

「Web デザイン実務士」の資格を取得する授業を実践的に学ばせるため、ネットワークを介して Web デザイン制作会社と連携した双方向授業を実施している。

日々変化し続ける Web デザインの制作について、現場情報を Web 制作会社のディレクターやデザイナーに、Web 会議形式で Skype を用いて遠隔講義を行ってもらう。



これにより第一線で活躍している専門家からは Web 制作現場での体験情報が得られ、学生が制作した作品について長所や短所の気づきの促進、専門化からの助言を受けられ、学習成果の通用性が体感できる。

【URL : <http://www.nuas-jc.ac.jp/index.html>】

2. 病理組織画像データベースによる自主学习支援

日本歯科大学生命歯学部

授業に動的な生体の仕組みを表現するために、イラスト・アニメーションや組織立体画像を取り入れている。学習支援教材として、Q&A 形式の病理診断画像や検索機能を備えた 3,000 症例を超える画像閲覧データベースを LAN 配信している。2007 年度には高解像度組織画像（バーチャルスライド）の LAN 配信システムを構築し、学習者がコンピュータ端末で「顕微鏡観察」が可能となるとともに、組織画像を記録・保存できる環境を整えている。

バーチャルスライドを含む Web 教材へのアクセス総数は、25,000 件を超えている。



2004 年度から 2007 年度に実施した学習

到達度の追跡調査では、画像データベースの構築による自主学习を徹底したことにより、病理診断テストの平均正答率が 10 ポイント向上した。【病理学講座 URL : <http://www.ndu.ac.jp/~pathhome/>】



3. 授業支援システムを活用した討論・対話型授業

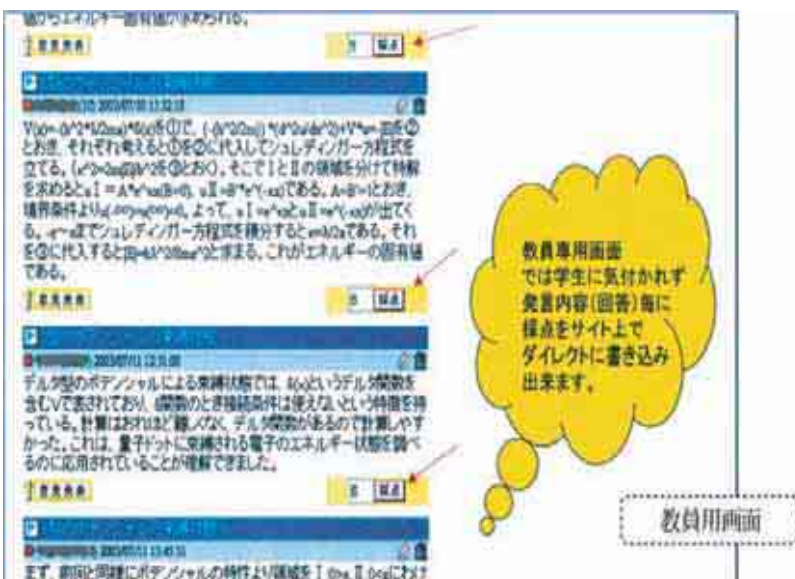
甲南大学理工学部

講義での説明が学生に理解されているかどうか、教員と学生の対話の中で確認するため、BBS による「授業支援システム e-広場」を5年間理工学部12クラスで活用している。講義の後で課題を提示し、学生一人一人にイントラネットのBBSで回答させ、公開する。回答について教員と学生が対話し、その評価結果を10点満点で学生個人に知らせる。公開のBBS上で意見交換しなければならないので、各学生に独自の考えが要求され、理解しなければならないという気持ちにさせる



ことで、講義への関心を持続させるこ

とが可能となる。また、500字以内によるメールのやり取りで、学生個人に適した学習指導が行えるとともにコミュニケーション能力や文書表現力についても指導できる。【研究室 URL : <http://tpweb2.phys.konan-u.ac.jp/>】



4. 英語の使用場面 Web 化による動機付授業

大阪産業大学教養部

大学における英語教育の問題点の一つにモチベーションの低さがあるが、その理由に将来的な英語の必要性が実感できないことがあげられる。そこで、日本の様々な職種での英語の必要性、いつどこでどのような形で英語が使われているのかを具体的に調査し、英語の使用現場を撮影・編集(撮影に問題がある場合はデモンストレーション或いはインタビュー撮影)して、現場で使われている英語の実態を資料として職種ごとに Web 上で掲載し、実用英語の



理解に使用している。学生の英語学習に

対するモチベーションが高まった。ビデオ撮影と編集にコストと時間がかかるため、現在は Web 上で数職種の動画しか見られないが、徐々にその数を増やしている。

(現場で使用しているテキスト資料は学内のみ閲覧可)

【URL : <http://www.las.osaka-sandai.ac.jp/~asuzuki/>】

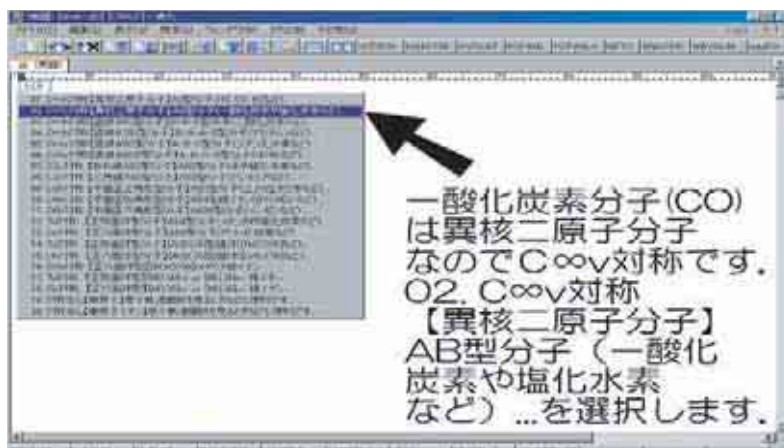
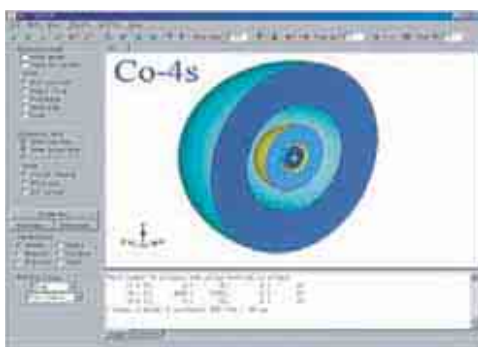


5. 三次元可視化システムを用いた基礎化学教育

岡山理科大学理学部

大学の基礎化学教育では、高等学校で習った電子の惑星モデル（長岡やラザフォードの原子模型）の概念を捨て、シュレディンガー方程式を解いて得られる原子軌道関数について学び直す。

しかし初めて目にする記号・方程式・量子概念に途惑い、その具体的なイメージを抱けずに化学に対する興味を失ってしまう学生も多い。そこで会



話形式で実行できる分子軌道計算システムを計算支援環境と組み合わせることにより、高精度な量子化学計算を短時間で容易に学生に体験させることに成功した。また三次元可視化システム VESTA でその計算結果を画面上で等値曲面や断面図として可視化すれば、電子に対する量子化学的なイメージを学生は楽しく容易に得られる。教育目的であれば、必要な環境は無償で構築できる。【URL : <http://www.chem.ous.ac.jp/~gsakane/>】

6. LMS を活用したスピーチコンテスト

清泉女学院短期大学

英語コース1年生で、リスニングと音読練習による音律（プロソディ）の習得やパラグラフライティングによる論理的な発信力の向上を目指している。前半では主に LMS に教材を提示してリスニング等の音声活動を実施。後半はテーマに応じた自由英作文、投稿を通じた作文演習などを行う。音声活動と作文演習を統合する活動としては「バーチャルスピーチコンテスト」を



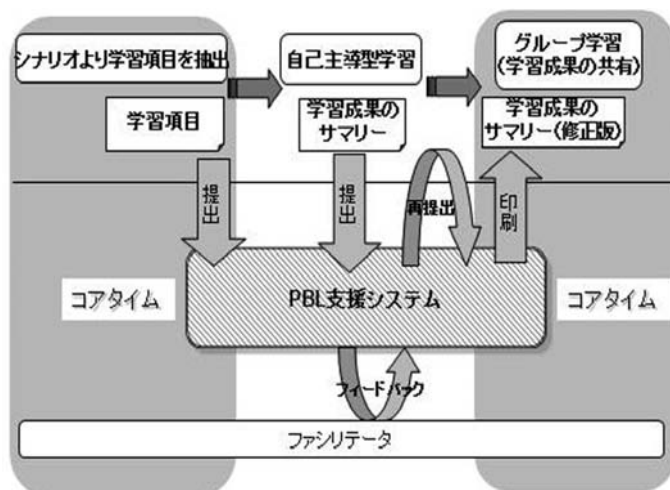
ディスカッション	ディスカッションの開始 返信	最新の投稿
the country i would like to	学生氏名	7 コメントを返信に書いた学生の氏名 2006年 12月 13日(水) 16:00
I want to...	学生氏名	11 コメントを返信に書いた学生の氏名 2006年 12月 13日(水) 16:46
[The country i would like to visit]	学生氏名	9 コメントを返信に書いた学生の氏名 2006年 12月 13日(水) 16:32
I want to visit country is...	学生氏名	1 学生氏名 2006年 12月 13日(水) 14:48
I want to go to Spain.	学生氏名	9 コメントを返信に書いた学生の氏名 2006年 12月 13日(水) 14:49
I want to go to America!!	学生氏名	4 コメントを返信に書いた学生の氏名 2006年 12月 13日(水) 14:41

取り入れている。電子掲示板（フォーラム）における添付機能を活用して、英作文の読み合い活動やコメントを書く活動、音声ファイルだけの掲示板で友達のスピーチを聞いてコメントを書くなどの授業を通じてパラグラフを中心としたわかりやすい英作文を心がけるよう指導することで英語習熟度は大きな伸びを示した。【URL : <http://iino.e-learning-server.com/moodle/>】

7. 医療人養成のための Web ベースによる PBL テュートリアル

昭和大学歯学部

医学・歯学・薬学・保健医療学部の1年次600名が富士吉田キャンパスで1年間寮生活を送っている。この環境を利用して、平成19年度より「グループ内で各学部の専門性に合わせた役割を發揮できる」ことを目標として、4学部横断のPBLチュートリアル（以下PBL）を導入した。必須科目である「チーム医療の基盤」において1年生を約70グループに分けて、指導している。コアタイムに



学生はグループで学習項目を抽出し、自己主導型学習を行い、提出物である学習成果のサマリーをPBL支援システムを介してファシリテータに提出する。ファシリテータは提出物のフォーマットや参考文献の選択、学習内容についてのフィードバックをPBL支援システムを通じて行う。[左図] 本システムは、使用する際に場所や時間を選ばないため、どのような状況であってもきめ細かな指導をすることを可能にし、教育効果を高めている。

【医療人 GP : URL : <http://www10.showa-u.ac.jp/~pharm/gp.html>】

8. LMS による授業支援システムの活用

駒澤大学グローバル・メディア・スタディーズ学部

平成19年度から学部の中核システムとして moodle を使った授業支援システムを提供している。このシステムでは通常の授業を円滑に行える e ラーニングとして、講義資料の提示、課題の提示と提出、小テスト、調査、アンケートなどが行え、講義中のキーワードの提出で出席管理を行う等、さまざまな形式の課題の提出が可能である。授業時間内のコミュニケーションの強化のために携帯電話を利用したアンケートシステム C ラーニングを導入



コースカテゴリー	
その他・留学	8
2009年度前期(Spring)	44
2009年度後期科目(Seminar)	23
2007	
2007年度前期科目(Seminar)	11
2007spring	47
2007autumn	28

した。このシステムではアンケート等

の学生への質問、回答が携帯電話で一つずつ表示され、その日の講義内容が理解できたのか、どのような疑問が生じたのかなどを直ちに教員側で確認することが可能であり、学生の疑問に即時的に回答することができる。質問や回答を教室内のスクリーンに表示することで疑問を提示した学生だけでなく、他の多くの学生にとっても参考になり、授業時間内に適切な修正・追加ができることから学内で高く評価されている。【GMS 学部 URL : <http://www.komazawa-u.ac.jp/gakubu/gms/>】

IT 使用と使用しない教員の基礎資料（抜粋）

【大学】

上段：授業に IT を使用する教員

下段：授業に IT を使用しない教員

『授業で直面している問題点』

●学生に関する問題	総計	人文科学系	社会科学系	理学系	工学系	情報科学系	農学系	保健系	生活・家政系	教育系	芸術系	その他
授業に出席しない	12.1% 13.3%	12.9% 13.1%	17.8% 22.3%	9.1% 10.5%	9.8% 7.9%	13.3% 19.8%	4.8% 7.7%	11.0% 10.6%	3.9% 3.9%	10.4% 8.8%	10.7% 11.2%	14.5% 9.2%
教員の言葉を理解できない	12.6% 13.4%	11.9% 11.6%	13.2% 16.0%	12.5% 11.4%	14.5% 13.4%	13.3% 9.9%	15.3% 14.8%	11.4% 12.5%	13.3% 19.7%	11.2% 13.5%	13.6% 14.8%	10.8% 10.9%
基礎学力がない	54.6% 58.5%	57.2% 62.6%	53.3% 53.6%	68.9% 72.3%	62.7% 71.2%	51.4% 62.4%	51.4% 57.0%	47.9% 49.7%	59.1% 58.8%	45.1% 40.9%	50.6% 58.0%	61.5% 65.5%
学習意欲がない	36.7% 37.7%	30.9% 34.0%	33.0% 39.9%	35.3% 41.4%	43.1% 44.8%	41.9% 48.5%	32.4% 33.8%	43.7% 41.0%	25.8% 26.6%	28.1% 30.5%	17.7% 22.4%	32.4% 35.1%
コミュニケーションをしようとしていない	13.3% 12.5%	11.8% 12.4%	12.5% 11.9%	11.0% 8.1%	10.0% 9.8%	12.6% 7.9%	25.5% 14.1%	16.4% 15.5%	10.3% 10.7%	14.7% 17.9%	13.6% 12.4%	11.5% 12.6%
その他	14.5% 11.0%	16.3% 10.8%	16.1% 10.3%	11.3% 7.8%	10.1% 7.1%	15.2% 7.9%	12.9% 12.0%	11.4% 9.2%	20.3% 19.3%	25.5% 22.2%	26.3% 14.8%	16.2% 16.1%
●教員に関する問題	総計	人文科学系	社会科学系	理学系	工学系	情報科学系	農学系	保健系	生活・家政系	教育系	芸術系	その他
動機付け・学習意欲を高める工夫が難しい	45.5% 50.4%	42.0% 48.9%	44.7% 53.8%	50.9% 59.3%	51.3% 58.0%	49.1% 62.8%	39.9% 41.7%	46.6% 46.5%	38.8% 39.0%	36.0% 41.4%	29.0% 35.7%	47.7% 54.7%
授業改善に関心が無い	0.5% 0.7%	0.6% 0.5%	0.2% 0.4%	0.1% 0.2%	0.4% 0.0%	0.6% 1.1%	0.0% 0.0%	1.1% 2.1%	0.0% 0.8%	0.4% 0.5%	0.8% 1.5%	0.6% 0.0%
学生とのコミュニケーションが難しい	14.5% 16.0%	14.3% 17.0%	14.8% 18.2%	16.9% 14.6%	15.6% 16.1%	14.9% 18.1%	19.8% 18.8%	13.9% 14.7%	10.2% 10.4%	10.1% 14.0%	11.2% 9.7%	14.6% 18.2%
関連教科との連携が難しい	30.0% 26.2%	27.6% 24.1%	30.8% 26.4%	29.7% 29.1%	25.9% 27.9%	27.7% 24.5%	32.3% 27.8%	33.0% 27.7%	32.9% 34.9%	30.6% 19.8%	32.4% 27.1%	28.9% 20.6%
授業設計、授業技術の工夫が必要	29.6% 31.1%	29.4% 32.4%	30.3% 30.9%	25.3% 23.2%	28.7% 26.4%	30.3% 22.3%	30.9% 28.5%	29.6% 31.2%	34.7% 40.7%	32.8% 37.7%	29.0% 37.2%	28.6% 31.8%
その他	11.0% 7.5%	12.7% 7.8%	11.3% 6.5%	9.6% 5.9%	10.4% 6.4%	11.7% 7.4%	9.3% 9.7%	8.9% 6.8%	13.1% 9.5%	15.6% 13.5%	17.8% 8.6%	12.0% 8.2%

●大学に関する問題	総計	人文科学系	社会科学系	理学系	工学系	情報科学系	農学系	保健系	生活・家政系	教育系	芸術系	その他
教育の質保証に対する危機意識が低い	30.5% 34.9%	32.2% 38.3%	31.4% 35.1%	33.7% 40.4%	31.5% 35.6%	29.3% 41.4%	30.0% 29.0%	27.3% 28.7%	31.6% 30.2%	30.3% 31.5%	32.2% 38.7%	32.6% 29.4%
人材育成の教育プログラムが不明確	19.3% 20.5%	18.1% 20.4%	17.8% 19.8%	16.7% 16.7%	16.2% 20.2%	15.2% 23.0%	20.3% 20.6%	25.3% 24.7%	19.3% 20.3%	16.7% 21.0%	15.3% 12.5%	20.7% 19.0%
ファカルティ・ディベロップメント(FD)が機能していない	11.4% 9.8%	13.3% 10.0%	13.0% 12.2%	11.8% 8.9%	10.8% 11.1%	11.7% 6.9%	13.2% 14.5%	9.0% 7.2%	8.4% 11.3%	12.7% 8.0%	9.1% 4.8%	14.0% 8.0%
組織的な教育・学習支援(人、物、金)がない	41.2% 38.9%	41.3% 39.2%	40.8% 39.3%	38.1% 34.5%	38.0% 35.3%	40.9% 43.7%	37.6% 35.9%	44.4% 39.5%	46.4% 43.2%	41.5% 41.0%	40.1% 40.3%	37.5% 46.6%
教育活動に対する評価の仕組みがない	24.0% 21.5%	19.6% 17.5%	22.9% 19.3%	24.6% 24.3%	26.1% 27.9%	26.5% 24.1%	31.8% 18.3%	26.9% 27.8%	17.5% 18.9%	18.0% 16.2%	17.8% 18.1%	21.8% 25.2%
その他	12.0% 9.6%	13.4% 9.1%	12.9% 10.4%	13.3% 10.0%	12.2% 8.0%	13.5% 6.9%	7.9% 13.7%	8.9% 6.8%	12.7% 12.2%	15.7% 14.3%	14.9% 11.3%	13.3% 12.3%

『授業改善に向け、今後どのような努力・対策が必要か』

●教員自身による努力	総計	人文科学系	社会科学系	理学系	工学系	情報科学系	農学系	保健系	生活・家政系	教育系	芸術系	その他
学習意欲を高めるような授業設計・運営を工夫したい	78.5% 79.8%	76.8% 80.9%	75.0% 78.3%	84.0% 84.3%	79.3% 82.4%	82.7% 80.4%	80.4% 82.1%	80.9% 80.1%	74.6% 77.5%	71.8% 77.1%	71.6% 72.6%	77.2% 75.5%
社会と連携し、現場感覚を導入した授業をしたい	30.4% 23.9%	20.5% 15.5%	38.7% 30.4%	11.1% 10.5%	36.1% 28.8%	27.2% 18.7%	37.5% 32.7%	28.2% 24.4%	45.7% 35.3%	40.5% 27.6%	45.3% 33.5%	29.7% 24.5%
対話を重視した授業を徹底したい	33.0% 37.0%	35.9% 41.9%	35.9% 38.0%	34.3% 34.4%	28.5% 34.1%	26.8% 29.0%	32.3% 33.3%	32.6% 33.3%	25.1% 19.8%	40.1% 42.1%	36.5% 38.7%	33.3% 34.5%
授業中に学生の反応を捉え、理解度に応じた授業をしたい	57.3% 63.7%	57.0% 66.7%	52.9% 64.5%	69.1% 72.3%	57.2% 64.6%	61.1% 66.4%	60.2% 53.8%	58.2% 60.5%	58.3% 60.9%	49.2% 55.5%	48.1% 56.4%	54.1% 59.5%
教室外での事前・事後学習指導を徹底したい	18.4% 17.5%	23.0% 20.7%	18.3% 15.8%	24.5% 24.9%	20.7% 18.9%	20.1% 19.6%	15.0% 16.0%	13.7% 13.5%	12.8% 12.8%	15.6% 11.8%	17.9% 19.2%	18.9% 18.0%
授業で獲得できる能力、授業価値の説明を徹底したい	23.6% 24.7%	22.1% 22.5%	21.3% 24.4%	23.3% 23.5%	29.0% 27.5%	26.6% 24.3%	18.6% 26.9%	23.8% 24.6%	25.9% 27.1%	19.1% 29.2%	26.0% 25.3%	22.8% 25.5%
授業の評価結果を学生にフィードバックしたい	12.5% 12.3%	10.5% 10.1%	10.1% 9.7%	13.5% 13.2%	10.7% 12.7%	11.1% 17.8%	16.0% 12.2%	16.6% 18.5%	10.7% 14.3%	11.4% 12.6%	12.3% 10.7%	11.7% 10.5%
プロジェクト授業、協調学習など教育技法を修得したい	10.0% 6.6%	11.0% 6.0%	10.5% 6.8%	3.8% 2.7%	8.4% 4.5%	11.9% 6.5%	7.0% 6.4%	10.3% 9.6%	13.6% 9.3%	13.3% 7.4%	9.8% 6.4%	9.3% 5.0%
授業改善に必要な情報技術を活用・修得したい	20.6% 19.5%	25.0% 20.7%	19.1% 18.8%	17.7% 15.0%	14.5% 14.5%	15.3% 8.4%	19.9% 19.2%	24.9% 22.6%	22.7% 31.8%	21.9% 22.6%	18.2% 16.5%	18.6% 16.5%
その他	4.1% 2.7%	4.9% 2.7%	4.5% 2.2%	5.0% 3.2%	4.1% 2.9%	5.0% 3.7%	2.6% 2.6%	2.9% 2.2%	2.1% 2.7%	4.9% 3.5%	2.5% 4.3%	4.2% 4.5%

●大学として取り組むべき課題	総計	人文科学系	社会科学系	理学系	工学系	情報科学系	農学系	保健系	生活・家政系	教育系	芸術系	その他
講義と体験を組み合わせたカリキュラムの導入	37.4% 34.7%	32.5% 28.7%	34.5% 31.1%	32.7% 30.5%	46.8% 45.2%	39.9% 34.6%	42.1% 41.7%	36.6% 38.2%	38.0% 41.9%	43.6% 41.5%	45.6% 39.6%	30.3% 34.5%
学部・学科または大学間を横断する副専攻の導入	18.9% 20.0%	23.0% 24.9%	20.6% 22.3%	19.0% 16.2%	16.0% 14.9%	17.0% 15.9%	17.1% 26.3%	16.7% 16.6%	14.2% 15.9%	17.2% 14.8%	32.6% 22.6%	20.1% 21.0%
学生の学習到達度点検による出口管理の徹底	39.3% 41.7%	35.0% 38.7%	40.0% 44.5%	42.7% 49.2%	44.8% 51.3%	45.0% 47.7%	38.0% 46.2%	39.6% 40.1%	43.0% 41.1%	27.8% 30.0%	21.8% 30.8%	35.4% 36.0%
筆記試験に偏向しない多面的な方法による成績評価の厳格化	18.6% 20.8%	17.9% 21.8%	15.7% 18.4%	16.1% 18.1%	18.7% 21.7%	19.5% 13.1%	19.6% 23.1%	22.4% 24.8%	12.6% 17.1%	17.7% 20.3%	20.0% 20.7%	15.3% 18.0%
人材育成を職務とする教員の意識改革、教育目標の共有化	41.0% 41.8%	37.2% 40.3%	39.9% 40.2%	34.7% 38.8%	41.1% 43.3%	37.6% 37.4%	45.5% 39.7%	44.6% 42.3%	48.1% 48.4%	47.5% 51.4%	42.1% 40.2%	41.4% 42.0%
教育の質を保证する学内統一試験の実施	8.6% 9.8%	8.3% 10.5%	9.8% 10.4%	10.9% 12.9%	10.7% 13.4%	9.0% 12.1%	7.0% 6.4%	7.1% 7.5%	7.8% 5.4%	6.5% 6.8%	3.2% 3.7%	8.7% 10.5%
職員の職能開発と教育・学習支援体制・環境の整備	39.1% 36.6%	39.3% 35.7%	37.1% 35.1%	34.5% 35.8%	34.0% 28.9%	33.1% 29.9%	40.1% 34.6%	45.9% 45.1%	45.5% 40.7%	36.6% 36.8%	43.9% 38.4%	38.4% 33.0%
教職員の改善提案を検討するオープンな組織の整備	34.7% 33.2%	37.5% 35.5%	34.3% 34.5%	36.0% 32.9%	29.9% 28.2%	34.7% 36.4%	32.8% 19.9%	34.5% 32.4%	35.3% 34.9%	37.7% 32.6%	36.1% 34.5%	36.0% 31.0%
教員の教育力の再開発	28.7% 28.4%	28.6% 29.7%	29.9% 28.5%	25.7% 25.6%	24.9% 23.4%	26.5% 20.6%	30.2% 28.2%	30.9% 28.7%	32.1% 33.3%	30.8% 34.5%	23.9% 27.4%	30.3% 25.5%
その他	9.3% 6.4%	11.2% 6.2%	10.8% 6.8%	12.3% 8.4%	8.5% 7.1%	12.1% 9.3%	8.0% 5.8%	6.1% 4.5%	6.7% 5.4%	10.0% 6.3%	8.8% 5.8%	8.1% 8.5%

【短期大学】

『授業で直面している問題点』

●学生に関する問題	総計	人文科学系	社会科学系	理学系	工学系	情報科学系	農学系	保健系	生活・家政系	教育系	芸術系	その他
授業に出席しない	4.8%	5.2%	2.5%	0.0%	7.5%	7.4%	3.7%	4.6%	3.7%	2.9%	5.7%	11.5%
	7.1%	10.3%	5.3%	6.3%	2.0%	0.0%	0.0%	8.2%	5.5%	4.5%	11.9%	3.2%
教員の言葉を理解できない	20.3%	20.9%	22.5%	25.0%	10.0%	22.1%	14.8%	29.2%	17.4%	18.8%	20.0%	23.1%
	17.4%	13.8%	18.4%	12.5%	20.4%	50.0%	28.6%	21.3%	17.0%	17.4%	14.9%	25.8%
基礎学力がない	65.2%	66.4%	62.5%	91.7%	60.0%	67.4%	66.7%	63.1%	72.7%	56.5%	37.1%	73.1%
	64.3%	74.1%	66.7%	75.0%	61.2%	50.0%	85.7%	65.6%	66.7%	56.1%	54.5%	61.3%
学習意欲がない	35.2%	28.4%	36.3%	41.7%	67.5%	36.8%	11.1%	27.7%	39.8%	29.0%	37.1%	38.5%
	36.7%	31.6%	40.4%	50.0%	67.3%	50.0%	28.6%	41.0%	36.4%	33.3%	29.9%	32.3%
コミュニケーションをしようしない	6.3%	7.5%	6.3%	0.0%	5.0%	6.3%	3.7%	6.2%	5.0%	5.8%	14.3%	7.7%
	6.4%	4.6%	7.0%	12.5%	4.1%	0.0%	0.0%	8.2%	7.3%	8.3%	6.7%	0.0%
その他	13.4%	15.7%	16.3%	0.0%	7.5%	8.4%	29.6%	16.9%	8.7%	18.8%	20.0%	7.7%
	12.7%	10.3%	11.4%	0.0%	4.1%	25.0%	0.0%	8.2%	13.3%	18.9%	16.4%	12.9%
●教員自身の問題	総計	人文科学系	社会科学系	理学系	工学系	情報科学系	農学系	保健系	生活・家政系	教育系	芸術系	その他
動機付け・学習意欲を高める工夫が難しい	49.3%	46.7%	47.6%	75.0%	67.5%	52.1%	50.0%	48.5%	49.4%	34.3%	50.0%	60.0%
	48.7%	52.1%	59.3%	77.8%	59.6%	75.0%	37.5%	43.5%	45.7%	44.1%	36.4%	53.3%
授業改善に関心が無い	0.5%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	2.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%	0.6%	0.0%	0.7%	0.0%
学生とのコミュニケーションが難しい	8.9%	11.7%	8.5%	16.7%	15.0%	8.5%	3.8%	8.8%	5.4%	4.3%	11.9%	20.0%
	9.6%	10.3%	11.0%	5.6%	11.5%	0.0%	12.5%	8.1%	5.1%	8.1%	15.0%	13.3%
関連教科との連携が難しい	28.5%	21.2%	31.7%	16.7%	25.0%	18.1%	19.2%	39.7%	33.7%	42.9%	28.6%	12.0%
	27.2%	18.8%	20.3%	16.7%	38.5%	12.5%	50.0%	37.1%	29.7%	33.8%	28.6%	13.3%
授業設計、授業技術の工夫が必要	35.3%	39.4%	40.2%	33.3%	20.0%	40.4%	30.8%	38.2%	30.1%	30.0%	40.5%	40.0%
	39.0%	30.9%	40.7%	16.7%	23.1%	25.0%	25.0%	40.3%	45.7%	46.3%	43.6%	30.0%
その他	8.7%	10.2%	6.1%	0.0%	7.5%	10.6%	19.2%	4.4%	7.8%	12.9%	4.8%	8.0%
	6.7%	10.3%	3.4%	11.1%	3.8%	25.0%	0.0%	6.5%	4.0%	8.1%	5.7%	13.3%

●大学に関する問題	総計	人文科学系	社会科学系	理学系	工学系	情報科学系	農学系	保健系	生活・家政系	教育系	芸術系	その他
教育の質保証に対する危機意識が低い	32.5%	42.1%	28.9%	54.5%	30.8%	28.3%	24.1%	32.8%	28.2%	32.4%	38.9%	30.4%
	34.8%	34.4%	31.7%	50.0%	48.9%	42.9%	0.0%	33.3%	34.8%	34.9%	30.6%	46.2%
人材育成の教育プログラムが不明確	19.7%	17.5%	18.4%	9.1%	23.1%	19.6%	10.3%	26.6%	26.9%	11.8%	13.9%	13.0%
	22.6%	21.0%	28.8%	7.1%	28.9%	14.3%	14.3%	36.8%	20.6%	15.1%	23.1%	23.1%
ファカルティ・ディベロップメント(FD)が機能していない	10.3%	12.7%	11.8%	9.1%	17.9%	10.9%	3.4%	12.5%	8.3%	10.3%	5.6%	0.0%
	9.6%	10.2%	11.5%	14.3%	4.4%	14.3%	0.0%	8.8%	9.7%	14.3%	5.0%	7.7%
組織的な教育・学習支援(人、物、金)がない	45.6%	46.0%	38.2%	54.5%	41.0%	50.0%	41.4%	46.9%	37.2%	55.9%	61.1%	56.5%
	46.0%	38.9%	42.3%	35.7%	48.9%	28.6%	42.9%	50.9%	47.1%	54.0%	49.6%	38.5%
教育活動に対する評価の仕組みがない	21.7%	18.3%	21.1%	27.3%	28.2%	26.1%	44.8%	14.1%	21.8%	19.1%	8.3%	30.4%
	16.6%	17.8%	13.5%	7.1%	13.3%	14.3%	57.1%	8.8%	20.0%	14.3%	21.5%	7.7%
その他	8.9%	7.9%	17.1%	0.0%	2.6%	4.3%	6.9%	10.9%	10.9%	11.8%	2.8%	4.3%
	7.3%	11.5%	6.7%	0.0%	4.4%	28.6%	0.0%	1.8%	7.1%	7.9%	7.4%	0.0%

『授業改善に向け、今後どのような努力・対策が必要か』

●教員自身による努力	総計	人文科学系	社会科学系	理学系	工学系	情報科学系	農学系	保健系	生活・家政系	教育系	芸術系	その他
学習意欲を高めるような授業設計・運営を工夫したい	79.0%	84.1%	77.3%	84.6%	88.1%	86.9%	58.6%	80.0%	80.7%	62.8%	76.6%	71.4%
	78.4%	78.0%	82.0%	100.0%	74.1%	62.5%	81.8%	78.5%	81.0%	74.8%	76.9%	75.0%
社会と連携し、現場感覚を導入した授業をしたい	37.7%	24.8%	59.1%	0.0%	23.8%	25.3%	51.7%	32.9%	39.8%	48.7%	61.7%	32.1%
	37.1%	18.8%	43.4%	16.7%	38.9%	50.0%	36.4%	38.5%	48.0%	43.0%	39.4%	25.0%
対話を重視した授業を徹底したい	31.0%	33.1%	38.6%	23.1%	35.7%	25.3%	27.6%	28.6%	26.7%	41.0%	27.7%	28.6%
	30.5%	42.9%	32.8%	38.9%	37.0%	50.0%	45.5%	23.1%	20.1%	26.5%	25.0%	40.6%
授業中に学生の反応を捉え、理解度に応じた授業をしたい	57.1%	55.9%	51.1%	53.8%	76.2%	63.6%	58.6%	67.1%	54.0%	47.4%	68.1%	32.1%
	60.3%	63.4%	58.2%	72.2%	57.4%	50.0%	63.6%	67.7%	57.0%	53.0%	66.9%	56.3%
教室外での事前・事後学習指導を徹底したい	16.6%	22.8%	11.4%	30.8%	21.4%	16.2%	37.9%	10.0%	13.6%	10.3%	12.8%	25.0%
	14.4%	16.8%	18.0%	11.1%	16.7%	0.0%	9.1%	13.8%	11.7%	12.6%	14.4%	15.6%
授業で獲得できる能力、授業価値の説明を徹底したい	19.5%	17.2%	23.9%	23.1%	14.3%	23.2%	6.9%	11.4%	21.0%	23.1%	19.1%	25.0%
	22.8%	18.8%	20.5%	27.8%	25.9%	0.0%	0.0%	20.0%	24.0%	28.5%	23.8%	28.1%
授業の評価結果を学生にフィードバックしたい	10.4%	9.7%	4.5%	15.4%	11.9%	12.1%	13.8%	12.9%	11.9%	12.8%	4.3%	7.1%
	10.9%	8.9%	6.6%	11.1%	9.3%	25.0%	9.1%	15.4%	10.1%	17.2%	8.8%	15.6%
プロジェクト授業、協調学習など教育技法を修得したい	13.4%	17.2%	11.4%	7.7%	7.1%	15.2%	17.2%	17.1%	11.4%	12.8%	8.5%	14.3%
	8.8%	5.8%	6.6%	0.0%	3.7%	12.5%	0.0%	9.2%	12.8%	11.3%	10.6%	6.3%
授業改善に必要な情報技術を活用・修得したい	24.4%	29.0%	12.5%	15.4%	16.7%	21.2%	17.2%	34.3%	29.5%	26.9%	17.0%	21.4%
	22.9%	24.1%	23.8%	11.1%	22.2%	0.0%	9.1%	20.0%	25.7%	25.8%	20.6%	18.8%
その他	2.9%	3.4%	1.1%	15.4%	0.0%	3.0%	3.4%	0.0%	2.8%	7.7%	0.0%	3.6%
	1.8%	4.2%	1.6%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.6%	1.3%	1.9%	0.0%

●大学として取り組むべき課題	総計	人文科学系	社会科学系	理学系	工学系	情報科学系	農学系	保健系	生活・家政系	教育系	芸術系	その他
講義と体験を組み合わせたカリキュラムの導入	36.3%	31.7%	40.9%	30.8%	35.7%	36.4%	55.2%	30.0%	33.0%	43.6%	42.6%	35.7%
	37.5%	29.8%	44.3%	22.2%	46.3%	37.5%	72.7%	29.2%	34.1%	49.0%	35.0%	34.4%
学部・学科または大学間を横断する副専攻の導入	16.0%	18.6%	10.2%	7.7%	9.5%	14.1%	20.7%	15.7%	15.9%	14.1%	27.7%	21.4%
	14.3%	17.8%	18.9%	11.1%	1.9%	0.0%	27.3%	12.3%	11.7%	13.2%	17.5%	6.3%
学生の学習到達度点検による出口管理の徹底	34.8%	37.9%	31.8%	61.5%	45.2%	33.3%	27.6%	37.1%	34.7%	28.2%	34.0%	28.6%
	34.7%	31.9%	35.2%	38.9%	44.4%	12.5%	36.4%	32.3%	40.2%	27.8%	35.6%	37.5%
筆記試験に偏向しない多面的な方法による成績評価の厳格化	15.1%	16.6%	15.9%	23.1%	9.5%	12.1%	31.0%	17.1%	10.8%	23.1%	14.9%	3.6%
	19.7%	23.6%	18.9%	38.9%	24.1%	25.0%	27.3%	21.5%	17.9%	17.9%	16.3%	9.4%
人材育成を職務とする教員の意識改革、教育目標の共有化	44.4%	43.4%	43.2%	15.4%	50.0%	43.4%	48.3%	47.1%	50.0%	38.5%	40.4%	39.3%
	48.6%	42.4%	48.4%	44.4%	50.0%	12.5%	27.3%	49.2%	58.1%	51.7%	46.9%	43.8%
教育の質を保証する学内統一試験の実施	8.1%	10.3%	5.7%	7.7%	16.7%	8.1%	10.3%	10.0%	8.0%	5.1%	4.3%	0.0%
	5.8%	6.8%	6.6%	5.6%	7.4%	25.0%	0.0%	4.6%	5.6%	5.3%	1.9%	15.6%
職員の職能開発と教育・学習支援体制・環境の整備	48.8%	46.2%	58.0%	38.5%	42.9%	49.5%	48.3%	52.9%	46.6%	51.3%	48.9%	42.9%
	44.3%	39.8%	37.7%	33.3%	37.0%	50.0%	9.1%	47.7%	49.7%	44.4%	53.8%	40.6%
教職員の改善提案を検討するオープンな組織の整備	39.4%	42.8%	36.4%	38.5%	45.2%	43.4%	17.2%	40.0%	37.5%	41.0%	46.8%	25.0%
	39.0%	41.9%	37.7%	27.8%	44.4%	62.5%	18.2%	43.1%	35.2%	37.7%	39.4%	40.6%
教員の教育力の再開発	33.5%	31.7%	29.5%	38.5%	21.4%	38.4%	31.0%	37.1%	38.6%	34.6%	17.0%	39.3%
	30.6%	33.5%	33.6%	27.8%	20.4%	50.0%	27.3%	32.3%	28.5%	35.8%	23.1%	37.5%
その他	5.0%	4.8%	4.5%	15.4%	4.8%	6.1%	3.4%	2.9%	4.5%	9.0%	2.1%	3.6%
	3.5%	5.2%	4.1%	0.0%	1.9%	25.0%	0.0%	0.0%	1.7%	4.0%	4.4%	3.1%

『平成 19 年度私立大学教員による授業改善調査』 回答大学・短期大学一覧

大学 (334 校)	101. 専修大学	202. 名古屋文理大学	303. 四国学院大学	68. 名古屋文理大学短期大学部
1. 旭川大学	102. 創価大学	203. 南山大学	304. 松山大学	69. 南山短期大学
2. 札幌大学	103. 大東文化大学	204. 日本福祉大学	305. 松山東雲女子大学	70. 三重中京大学短期大学部
3. 札幌学院大学	104. 高千穂大学	205. 名城大学	306. 高知工科大学	71. 聖泉大学短期大学部
4. 千歳科学技術大学	105. 拓殖大学	206. 皇學館大学	307. 九州栄養福祉大学	72. 大谷大学短期大学部
5. 道都大学	106. 多摩大学	207. 鈴鹿医療科学大学	308. 九州共立大学	73. 京都外国語短期大学
6. 苫小牧潤澤大学	107. 玉川大学	208. 三重中京大学	309. 九州国際大学	74. 京都経済短期大学
7. 函館大学	108. 中央大学	209. 四日市大学	310. 九州産業大学	75. 京都光華女子大学短期大学部
8. 藤女子大学	109. 津田塾大学	210. 聖泉大学	311. 九州情報大学	76. 京都女子大学短期大学部
9. 北星学園大学	110. 帝京大学	211. びわこ成蹊スポーツ大学	312. 九州女子大学	77. 龍谷大学短期大学部
10. 北海学園大学	111. 東海大学	212. 大谷大学	313. 久留米大学	78. 大阪青山短期大学
11. 北海商科大学	112. 東京医療保健大学	213. 京都外国語大学	314. 久留米工業大学	79. 大阪大谷大学短期大学部
12. 北海道医療大学	113. 東京家政大学	214. 京都学園大学	315. 西南学院大学	80. 大阪学院短期大学
13. 北海道工業大学	114. 東京経済大学	215. 京都光華女子大学	316. 聖マリア学院大学	81. 大阪芸術大学短大部
14. 北海道東海大学	115. 東京工芸大学	216. 京都産業大学	317. 第一薬科大学	82. 大阪国際大学短期大学部
15. 北海道薬科大学	116. 東京慈恵会医科大学	217. 京都女子大学	318. 筑紫女学院大学	83. 大阪産業大学短期大学部
16. 酪農学園大学	117. 東京女子大学	218. 京都創成大学	319. 中村学園大学	84. 大阪女子短期大学
17. 岩手医科大学	118. 東京女子医科大学	219. 京都橘大学	320. 福岡大学	85. 大阪信愛女学院短期大学
18. 石巻専修大学	119. 東京電機大学	220. 京都ノートルダム女子大学	321. 福岡国際大学	86. 関西女子短期大学
19. 仙台北百合女子大学	120. 東京農業大学	221. 京都市教大学	322. 福岡工業大学	87. 千里金蘭大学短期大学部
20. 東北学院大学	121. 東京富士大学	222. 同志社大学	323. 福岡女学院大学	88. 四天王寺国際仏教大学短期大学部
21. 東北工業大学	122. 東京理科大学	223. 同志社女子大学	324. 長崎外国語大学	89. 梅花女子大学短期大学部
22. 東北福祉大学	123. 東邦大学	224. 佛教大学	325. 長崎総合科学大学	90. 東大阪大学短期大学部
23. 東北薬科大学	124. 東洋大学	225. 平安女学院大学	326. 九州東海大学	91. 甲子園短期大学
24. いわき明星大学	125. 日本大学	226. 立命館大学	327. 熊本学園大学	92. 神戸松蔭女子学院短期大学
25. 東日本国際大学	126. 日本歯科大学	227. 龍谷大学	328. 崇城大学	93. 神戸女子短期大学
26. 筑波学院大学	127. 日本女子大学	228. 大阪青山大学	329. 日本文理大学	94. 神戸山手短期大学
27. 常磐大学	128. 文化女子大学	229. 大阪大谷大学	330. 別府大学	95. 産業技術短期大学
28. 流通経済大学	129. 日本女子体育大学	230. 大阪学院大学	331. 立命館アジア太平洋大学	96. 聖和大学短期大学部
29. 足利工業大学	130. 文化女子大学	231. 大阪経済大学	332. 九州保健福祉大学	97. 園田学園女子大学短期大学部
30. 作新学院大学	131. 法政大学	232. 大阪経済法科大学	333. 鹿児島国際大学	98. 兵庫大学短期大学部
31. 獨協医科大学	132. 星薬科大学	233. 大阪芸術大学	334. 沖縄国際大学	99. 武庫川女子大学短期大学部
32. 白鴎大学	133. 武蔵大学	234. 大阪工業大学		100. 大阪樟蔭女子大学短期大学部
33. 上武大学	134. 武蔵工業大学	235. 大阪国際大学	短期大学 (125 校)	101. 奈良文化女子短期大学
34. 跡見学園女子大学	135. 武蔵野大学	236. 大阪産業大学	1. 旭川大学女子短期大学部	102. 就美大学短期大学部
35. 共栄大学	136. 武蔵野学院大学	237. 大阪歯科大学	2. 國學院短期大学	103. 順正短期大学
36. 埼玉医科大学	137. 明治大学	238. 大阪樟蔭女子大学	3. 札幌大学女子短期大学部	104. 鈴峯女子短期大学
37. 埼玉工業大学	138. 明治学院大学	239. 大阪商業大学	4. 専修大学北海道短期大学	105. 比治山大学短期大学部
38. 十文字学園女子大学	139. 明治薬科大学	240. 大阪女学院大学	5. 拓殖大学北海道短期大学	106. 広島国際学院大学自動車短期大学部
39. 城西大学	140. 明星大学	241. 大阪体育大学	6. 北星学園大学短期大学部	107. 広島文化短期大学
40. 女子栄養大学	141. 立教大学	242. 大阪電気通信大学	7. 北海道自動車短期大学	108. 四国大学短期大学部
41. 駿河台大学	142. 立正大学	243. 追手門学院大学	8. 酪農学園大学短期大学部	109. 高松短期大学
42. 聖学院大学	143. 和光大学	244. 関西大学	9. いわき短期大学	110. 松山東雲短期大学
43. 西武文理大学	144. 早稲田大学	245. 関西医科大学	10. 常磐短期大学	111. 高知学園短期大学
44. 東京国際大学	145. 麻布大学	246. 関西外国語大学	11. 足利短期大学	112. 九州女子短期大学
45. 獨協大学	146. 神奈川大学	247. 作新学院大学女子短期大学部	12. 作新学院大学女子短期大学部	113. 九州造形短期大学
46. 日本工業大学	147. 神奈川工科大学	248. 近畿大学	13. 新島学園短期大学	114. 聖マリア学院短期大学
47. 文教大学	148. 関東学院大学	249. 四天王寺国際仏教大学	14. 埼玉短期大学	115. 近畿大学九州短期大学
48. 文京学院大学	149. 相模女子大学	250. 摂南大学	15. 十文字学園女子大学短期大学部	116. 筑紫女学院大学短期大学部
49. 平成国際大学	150. 産業能率大学	251. 千里金蘭大学	16. 城西短期大学	117. 東海大学福岡短期大学
50. ものつくり大学	151. 湘南工科大学	252. 太成学院大学	17. 聖徳大学短期大学部	118. 中村学園大学短期大学部
51. 江戸川大学	152. 女子美術大学	253. 帝塚山学院大学	18. 千葉敬愛短期大学	119. 東筑紫短期大学
52. 敬愛大学	153. 鶴見大学	254. 梅花女子大学	19. 千葉経済大学短期大学部	120. 福岡工業大学短期大学部
53. 秀明大学	154. 桐蔭横浜大学	255. 羽衣国際大学	20. 青山学院女子短期大学	121. 福岡女学院大学短期大学部
54. 淑徳大学	155. フェリス女学院大学	256. 阪南大学	21. 大妻女子大学短期大学部	122. 福岡女子短期大学
55. 城西国際大学	156. 新潟経営大学	257. 東大阪大学	22. 嘉悦大学短期大学部	123. 長崎外国語短期大学
56. 聖徳大学	157. 新潟国際情報大学	258. 桃山学院大学	23. 実践女子短期大学	124. 別府大学短期大学部
57. 清和大学	158. 金沢学院大学	259. 芦屋大学	24. 昭和女子大学短期大学部	125. 鹿児島国際大学短期大学部
58. 千葉科学大学	159. 金沢星稜大学	260. 大手前大学	25. 文京学院短期大学	
59. 千葉経済大学	160. 金沢工業大学	261. 関西国際大学	26. 女子栄養大学短期大学部	
60. 千葉工業大学	161. 北陸大学	262. 関西学院大学	27. 女子美術大学短期大学部	
61. 千葉商科大学	162. 福井工業大学	263. 甲子園大学	28. 白梅学園短期大学	
62. 中央学院大学	163. 帝京科学大学	264. 甲南大学	29. 杉野服飾大学短期大学部	
63. 帝京平成大学	164. 山梨学院大学	265. 甲南女子大学	30. 創価女子短期大学	
64. 東京歯科大学	165. 清泉女学院大学	266. 神戸学院大学	31. 帝京大学短期大学	
65. 東京情報大学	166. 諏訪東京理科大学	267. 神戸芸術工科大学	32. 戸板女子短期大学	
66. 東京成徳大学	167. 朝日大学	268. 神戸国際大学	33. 東海大学短期大学部	
67. 東洋学園大学	168. 岐阜経済大学	269. 神戸松蔭女子学院大学	34. 東京家政大学短期大学部	
68. 了徳寺大学	169. 岐阜聖徳学園大学	270. 神戸女学院大学	35. 東京成徳短期大学	
69. 麗澤大学	170. 中京学院大学	271. 神戸女子大学	36. 東京農業大学短期大学部	
70. 和洋女子大学	171. 中部学院大学	272. 神戸親和女子大学	37. 東京富士大学短期大学部	
71. 青山学院大学	172. 東海学院大学	273. 神戸山手大学	38. 日本大学短期大学部	
72. 大妻女子大学	173. 静岡英和学院大学	274. 聖和大学	39. 日本歯科大学東京短期大学	
73. 桜美林大学	174. 静岡産業大学	275. 園田学園女子大学	40. 山野美容芸術短期大学	
74. 嘉悦大学	175. 静岡文化芸術大学	276. 姫路獨協大学	41. 山脇学園短期大学	
75. 学習院大学	176. 静岡理工科大学	277. 兵庫大学	42. 立教女学院短期大学	
76. 学習院女子大学	177. 聖隷クリストファー大学	278. 武庫川女子大学	43. 相模女子大学短期大学部	
77. 北里大学	178. 愛知大学	279. 流通科学大学	44. 湘北短期大学	
78. 共立薬科大学	179. 愛知医科大学	280. 畿央大学	45. 東海大学医療技術短期大学	
79. 杏林大学	180. 愛知学院大学	281. 帝塚山大学	46. 鶴見大学短期大学部	
80. 慶應義塾大学	181. 愛知学泉大学	282. 天理大学	47. 文教大学女子短期大学部	
81. 恵泉女子学園大学	182. 愛知工業大学	283. 奈良大学	48. 横浜創英短期大学	
82. 工学院大学	183. 愛知淑徳大学	284. 奈良産業大学	49. 日本歯科大学新潟短期大学	
83. 國學院大學	184. 愛知東邦大学	285. 岡山理科大学	50. 星稜女子短期大学	
84. 国際基督教大学	185. 桜花学園大学	286. 吉備国際大学	51. 山梨学院短期大学	
85. 国士館大学	186. 金城学院大学	287. 倉敷芸術科学大学	52. 清泉女学院短期大学	
86. 駒澤大学	187. 相山女学院大学	288. 就実大学	53. 岐阜医療技術短期大学	
87. 実践女子大学	188. 大同工業大学	289. ノートルダム清心女子大学	54. 中部学院大学短期大学部	
88. 芝浦工業大学	189. 中京大学	290. 呉大学	55. 中日本自動車短期大学	
89. 順天堂大学	190. 中京女子大学	291. 比治山大学	56. 静岡英和学院大学短期大学部	
90. 上智大学	191. 中部大学	292. 広島経済大学	57. 愛知大学短期大学部	
91. 昭和大学	192. 東海学園大学	293. 広島工業大学	58. 愛知学院大学短期大学部	
92. 昭和女子大学	193. 同朋大学	294. 広島国際学院大学	59. 愛知学泉短期大学	
93. 昭和薬科大学	194. 豊田工業大学	295. 広島修道大学	60. 名古屋短期大学	
94. 白梅学園大学	195. 名古屋音楽大学	296. 広島女学院大学	61. 名古屋学芸大学短期大学部	
95. 百合女子大学	196. 名古屋外国語大学	297. 福山大学	62. 名古屋経済大学短期大学部	
96. 杉野服飾大学	197. 名古屋学院大学	298. 徳山大学	63. 中京女子大学短期大学部	
97. 成蹊大学	198. 名古屋経済大学	299. 梅光学院大学	64. 東邦学園短期大学	
98. 成城大学	199. 名古屋産業大学	300. 山口東京理科大学	65. 名古屋造形芸術大学短期大学部	
99. 聖心女子大学	200. 名古屋女子大学	301. 四国大学	66. 名古屋経営短期大学	
100. 清泉女子大学	201. 名古屋造形芸術大学	302. 高松大学	67. 名古屋女子大学短期大学部	

社団法人私立大学情報教育協会

info@juce.jp

<http://www.juce.jp>